

3. 大阪圏の住宅地

※（ ）は前年変動率

京 都 府	<ul style="list-style-type: none"> ○ 京都市では、0.1%上昇(2.0%上昇)。全 11 区のうち、6 区で上昇幅が縮小、2 区で上昇から横ばい、2 区で上昇から下落となり、1 区で下落が継続した。 ○ 京都市周辺では、長岡京市、向日市、宇治市、亀岡市及び城陽市で上昇から下落に転じ、久御山町は下落幅が拡大した。 ○ 北部及び南部の市町では、下落が続いている。
大 阪 府	<ul style="list-style-type: none"> ○ 大阪市では、0.3%上昇(1.0%上昇)。全 24 区のうち、4 区で上昇・横ばいが継続し、13 区で上昇幅が縮小、2 区で上昇から横ばい、5 区で上昇から下落となった。 ○ 堺市では、0.4%上昇(1.6%上昇)。全 7 区のうち、美原区が下落から上昇、4 区で上昇幅が縮小となり、2 区で下落が継続した。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 北区では、地下鉄御堂筋線の始発駅であるなかもず駅周辺の需要が堅調である。 ○ 北大阪では、鉄道駅徒歩圏でのマンション用地や大阪・京都への交通便利性の良好な住宅地の需要が堅調で、吹田市、箕面市、豊中市、茨木市などで上昇が続いているが上昇幅が縮小した。 ○ 東大阪及び南大阪では、下落が続いている市町村が多く見られる。
兵 庫 県	<ul style="list-style-type: none"> ○ 神戸市では、0.2%上昇(0.7%上昇)。全 9 区のうち、5 区で上昇幅が縮小、1 区で横ばいから下落となり、3 区で下落が継続した。 ○ 阪神地域では、芦屋市、伊丹市、宝塚市で上昇が続いているが上昇幅が縮小し、尼崎市、西宮市は上昇から下落に転じた。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 大阪・神戸への通勤・通学のため、JR・阪急・阪神の鉄道各線の各駅への接近性に優れた地域は需要が堅調である。 ○ 北部の市町では、下落が続いている。

奈 良 県	<ul style="list-style-type: none"> ○ 奈良市では、0.3%下落(0.3%上昇)。生駒市及び大和郡山市を含め3市が上昇から下落に転じた。 ○ その他の市町村も下落が続いている。
-------	---

市区町村別の状況（大阪圏・住宅地）

